

令和8年3月

令和7年度 委員会活動達成状況点検・評価報告書

千葉県立保健医療大学

自己点検・評価委員会 自己点検・評価実施推進部会

目 次

共通教育運営会議	2
特色科目運営会	3
入試改革検討委員会	5
入試実施委員会	6
教務委員会	8
FD・SD 委員会	9
学術推進企画委員会	10
学生委員会	11
進路支援委員会	13
研究倫理審査委員会	14
国際交流委員会	15
図書委員会	17
社会貢献委員会	19
自己点検・評価委員会	21
将来構想検討委員会	23
総務・企画委員会	25
広報委員会	26
情報システム委員会	28
衛生委員会	30
危機管理委員会	31
人事委員会	32
教員再任審査委員会	33
キャンパス・ハラスメント防止対策委員会	34

共通教育運営会議 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標 共通教育科目（一般教養科目、保健医療基礎科目）の円滑な実施と 将来構想の検討</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通教育科目教員人事の着実な実行 ・今後の本学のあり方を考慮し、共通教育科目（一般教養科目、保健医療基礎科目）の構成などについて、現状に問題点があればそれを見出し、改善を検討する。 ・大学院設置や独法化などを見据えて、大学の組織のなかでの共通教育運営会議の位置づけや他の委員会との関係について現状を再考する。
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>今年度の共通教育科目（一般教養科目・保健医療基礎科目）関連の募集人事について、欠員補充する教員の担当領域について、各学科・専攻の意見を踏まえたうえで検討し募集要望する領域を決めた。また、共通教育の非常勤講師人事について教務委員会を兼務する構成員を中心に事務担当者とともに調整を行った。</p> <p>今後の独法化・大学院設置を見据えた共通教育のあり方を考える基礎資料とすることを念頭に、これから一般教養科目・保健医療基礎科目で重視すべき・不足している領域について構成員から意見収集したところ、数理データサイエンス、生成 AI リテラシー、英語および英語以外の外国語、地学・地理学などが挙げられた。</p> <p>同じく共通教育運営会議の組織の仕組み・あり方についても構成員から意見収集した。各委員会へ構成員を派遣する現在の人事のあり方の再考や、共通教育専任教員が学科で意見が伝わりやすく、共通教育にできるだけ専念できるようにし、設備・情報を共有できるような仕組みにしてほしいなどの意見が得られた。</p> <p>また、図書委員会を兼務する構成員を中心に来年度の図書館購入図書の希望を委員会内で収集し図書委員会に伝達した。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>共通教育科目関連の人事は着実にを行うことができたので継続したい。</p> <p>共通教育で強化すべき科目や組織のあり方についての意見は今後の共通教育運営会議のあり方を考えるうえでの参考にすることができたが、さらに広く意見を収集し、より深く検討すべきであるとする。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>今後、強化すべき科目や組織のあり方について共通教育運営会議内でいっそうの議論の機会を設定することが望ましい。</p>
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>（理由）一般教養科目、保健医療基礎科目、医学系科目の充実をはかるという目標に沿って、現状の問題点の検討や、改善策を検討する活動が実行された。その結果、今後の独法化・大学院設置を見据えた基礎資料作成のための意見収集がなされた。今後は、共通教育で強化すべき科目や組織のあり方についての再考や、共通教育専任教員が教育に専念しやすい設備・情報面への取り組みが期待される。</p>
<p>委員長：加瀬政彦</p>
<p>面談者：細山田康恵（学部長）</p>
<p>面談日：2026年2月17日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

特色科目運営会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標 特色科目4科目（うち1科目は自由科目）において、学科・専攻の枠を超えた学生同士のチーム活動を通じて、系統的な学修の積み重ねが推進される授業運営体制を構築する。その実現に向けて、各科目間の連携を強化し、科目の評価改善に取り組む。</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>① 学生の専門職としての資質を育むため、アクティブラーニングを効果的に用いた教授法を体系的に整備する。</p> <p>② IPE（Interprofessional Education:専門職連携教育）の学年ごとの学修の積み重ねを検討し、現状の課題に対する改善策を検討する。</p> <p>③ 特色科目カリキュラムマップの内容について再検討する。</p> <p>④ 地域資源を活用したサービ斯拉ーニングの充実と拡充を検討する。</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>① 学生の専門職としての資質を育むため、アクティブラーニングを効果的に用いた教授法を体系的に整備する</p> <p>アクティブラーニングを用いた教授法について、評価可能性を意識した到達目標の表記の必要性について検討し、体系的に整備する活動方針を明確化した。</p> <p>体験ゼミナールでは、ポスター作成方法の見直しをはじめ学修成果を可視化する具体的な改善を実施した。また、教員配置の効率化や授業運営方法の見直しについても検討を進め、教員負担の軽減と教育効果の両立を図ることを継続課題とした。</p> <p>千葉県健康づくりでは、災害支援に関して、日本災害リハビリテーション支援協会に所属する作業療法士を講師として招聘し、実践的視点に基づく講義内容の充実を図った。教員間で評価基準にばらつきが生じる点が課題として挙げられ、評価の統一化に向けた検討を継続課題とした。</p> <p>専門職間の連携活動論では、グループワークの時間配分を見直し、学生が主体的・能動的に演習に取り組める授業構成へと改善を行った。グループワークを中心とした演習形態において、個々の学生の学修成果の評価方法が課題として挙げられた。また、担当教員の授業運営に対する認識や関与の度合いについても課題となり、評価方法の明確化および教員間の共通理解の醸成を継続課題とした。</p> <p>② IPE（Interprofessional Education:専門職連携教育）の学年ごとの学修の積み重ねを検討し、現状の課題に対する改善策を検討する</p> <p>学年進行に応じた学修の積み重ねを可視化するため、特色科目間の評価指標や到達目標をDPに紐づけて整理する方向性を確認した。</p> <p>体験ゼミナールや社会実習において、他科目との関連性や学修の位置づけについて学生向けに説明を行い、科目間のつながりを意識した学修を促した。</p> <p>各科目における評価観点やルーブリック作成に向けた基礎資料を共有し、専門職連携教育の段階的な深化に向けた検討を継続課題として位置づけた。</p> <p>③ 特色科目カリキュラムマップの内容について再検討する</p> <p>大学案内に掲載する特色科目の構成図について、科目間の連続性、年次進行に伴う学修の発展、DP・CPとの整合性の観点から再検討を行った。その結果、最終到達目標の文言を「多職種協働による地域の多様な人々の健康を支える実践力」とし、大学運営会議の合意に至った。また、今年度における変更範囲を明確化したうえで、今後の段階的な見直しスケジュールを共有し、継続的な改善に向けた基盤を整えた。</p> <p>④ 地域資源を活用したサービ斯拉ーニングの充実と拡充を検討する</p>

社会実習を中心に、地域資源を活用した学修機会の現状を共有し、引き続き充実・拡充を検討すべき事項として位置づけた。一方で、学生の安全確保、訪問先の管理体制、人的・時間的リソースの制約などの課題が明確となり、単年度での拡充には慎重な検討が必要であることを確認した。今後は、関連委員会や学内体制との連携を視野に入れながら、中長期的な検討を進める方向性を共有した。

[評価結果の理由と改善策]

・ **評価結果の理由**

- ・ 各活動計画については、表記の整理や方針の共有、検討プロセスの構築が進み、授業運営体制の基盤整備という点では一定の成果が認められる。
- ・ 一方で、IPEの学修成果の可視化や、科目間で統一された評価指標・ルーブリックの作成には至っておらず、検討段階にとどまっている事項も多い。
- ・ サービスラーニングについては、理念的な方向性は共有されたものの、リスク管理や人的リソースの制約から、具体的な拡充策の実施には課題が残った。

・ **改善策**

- ・ 各科目における到達目標とDPとの対応関係について、委員会内にとどまらず、大学全体としての合意形成を図るための検討体制を整える。
- ・ ルーブリックについては、段階的に展開し、教員・学生間の共通理解を促進する。
- ・ サービスラーニングの充実にあたっては、訪問先の精査や安全管理を含めた実施基準を明確化し、学内の関連委員会や組織と連携した中長期的な検討を行う。
- ・ 大学案内に掲載する特色科目の構成図については、次期パンフレット改訂を見据え見直しを継続する。

[申し送り事項]

- ・ 上記改善策の内容に従い、各科目の到達目標を検討の上ルーブリック作成を行い、特色科目の構成図の見直しにつなげる。
- ・ 大学全教員に特色科目の科目間のつながりと到達目標を浸透させ、系統的な学修の積み重ねが推進される授業運営体制を構築する。

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5特に優れている 4目標を上回っている 3目標通りの成果 2やや問題あり改善余地あり 1問題あり改善必要

(理由) 特色科目の科目間の連続性や年次進行に伴う学習の発展を、本学のDPと照合し、整合性を図り、特色科目の授業運営体制の基盤を整えた成果は大きい。各特色科目において従来の教育内容や評価が見直され、課題を解決し、改善が図られた上で授業改善が行われた。新しい取り組みについても、委員会で今後の課題の抽出と改善が検討されており、今後も本学特色科目の教育の質向上が期待される。

委員長：木内千晶

面談者：細山田康恵（学部長）

面談日：2026年2月17日

自己点検・評価実施推進部会：広川由子

入試改革検討委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>1) 一般選抜、特別選抜、社会人及び編入学試験受験者ごとの GPA、留年者・休学者・退学者、国家試験及び県内就職率等の情報を分析し、アドミッションポリシー（以下 AP）に則った入学生が確保できているかを評価する。</p> <p>2) 大学入試共通テストで令和7年度入学者から課せられた「情報 I」について情報収集および分析を行い、必要に応じて FD・SD を検討する。</p> <p>3) 入学試験に要する出願書類（調査書や取得単位等）の適切な取り扱いについて検討する。</p> <p>4) その他、当委員会が所掌すべき事象について検討する。</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) これまで集積した調査データに令和6年度卒業生データを加え、その動向を各学科専攻で分析した上で委員会にて検討し、現状の制度について評価する。</p> <p>2) 「情報 I」について、教育委員会、高校等、文科省、学内、臨床実習施設等広く情報収集を行い、当該科目の活用方法について各学科専攻で意見をまとめた上で委員会にて検討する。</p> <p>3) 入試実施委員会と協力し、出願書類の公平かつ AP に則った取扱い方法について検討する。</p> <p>4) その他必要に応じて各委員が学内外で情報収集を行い検討する。</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>1) 試験受験者ごとの GPA、留年者・休学者・退学者、国家試験及び県内就職率等の情報を分析し、AP に則った入学生が確保できているか評価を取りまとめた。</p> <p>2) 情報 I について現況および他校の動向に関する情報を収集、委員で共有し、分析した。また、県教育委員会の情報 I 担当者へ電話および訪問での情報収集を行い委員で共有した。</p> <p>3) 入試出願書類（調査書が出せない受験者の扱い等）の適切な取り扱いについて検討した。</p> <p>4) 所掌すべき事象について適宜調査及び検討を行った。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>1) 各学科・専攻とも概ね AP に沿った入学生を確保し、学校推薦型の入学者が良好である。一方、情報 I の得点を採用した入学生が7割以上を占めた為、入学後の状況も確認すべきである。</p> <p>2) 情報 I の他大学の状況確認を行った結果、全て取扱いを変更していない。また、高校側からは、他の科目と比べ平均点が70点と高く、入試対策のしやすい科目、という評価であった。</p> <p>3) 年月の経過により調査書が発行されない場合の扱いを入試実施委員会と共に検討を行った。</p> <p>4) 所掌すべき事象として通信制高校の学校推薦型選抜での扱いについて入試実施委員会と共に検討を行い継続審議となった。歯科衛生学科および作業療法学専攻から希望があった面接試験の評価票の変更について審議を行った。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>1) AP に沿った入学者の確保について今後もデータを分析し改善策を検討する。</p> <p>2) 情報 I の情報収集を継続し、次年度に FD を計画し、必要があれば扱いの変更を検討する。</p>
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由) 入学者データ分析や情報 I の情報収集、出願書類の検討など計画は概ね達成され、取り組みは妥当である。情報 I 選択者の入学後追跡や基準の明確化など継続的改善が望まれる。</p>
<p>委員長：藤田佳男</p>
<p>面談者：細山田康恵（総括委員長）</p>
<p>面談日：2026年2月17日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

入試実施委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>1) 本学のアドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜するための入試業務を公平・公正に実施する。</p> <p>①入試実施業務：特別選抜・編入学試験・一般選抜・大学入学共通テストそれぞれが確実に、かつ効率的に実施されるよう、実施要領の更新・改訂（特に大学入学共通テスト試験当日の円滑な実施にかかわる業務のマニュアル化及び試験担当者への事前説明内容の検討）を行う。また、採点業務の効率化・ミス防止に向けて方法を検討する。</p> <p>②入試問題作成：作問者への問題作成依頼、作成された入試問題の校正、外部委託による入試問題事前点検を実施して、適切な入試問題・解答用紙・採点基準を作成する。</p> <p>2) 通信制高校に在学する受験生等に対応できるよう出願資格・出願書類を見直し、入学者選抜要項・学生募集要項を修正する。</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>■入試実施業務について</p> <p style="margin-left: 20px;">6月：入学者選抜要項の完成・大学ホームページへの掲載</p> <p style="margin-left: 20px;">7月：特別選抜・編入学試験 監督者・面接者等の人選</p> <p style="margin-left: 20px;">9月：特別選抜・編入学試験 募集要項の完成・大学ホームページへの掲載</p> <p style="margin-left: 20px;">10月：特別選抜実施要領・監督要領の完成・配布</p> <p style="margin-left: 20px;">11月：一般選抜学生募集要項の完成・大学ホームページへの掲載</p> <p style="margin-left: 40px;">一般選抜試験 監督者・面接者等の人選</p> <p style="margin-left: 40px;">特別選抜試験・編入学試験の実施・採点・合否判定・実施後アンケート</p> <p style="margin-left: 20px;">1月：一般選抜試験実施要領・監督要領の完成・配布</p> <p style="margin-left: 20px;">2月：一般選抜試験の実施・採点・合否判定・実施後アンケート</p> <p>■入試問題作成について</p> <p style="margin-left: 20px;">4月：今年度入試問題作成担当者の選出・依頼</p> <p style="margin-left: 20px;">5月～10月：特別選抜試験・編入学試験問題の校正</p> <p style="margin-left: 20px;">9月～2月：一般選抜試験問題の校正</p> <p style="margin-left: 20px;">11月初旬：特別選抜試験・編入学試験問題の完成・印刷</p> <p style="margin-left: 20px;">2月初旬：一般選抜試験問題の完成・印刷</p> <p style="margin-left: 20px;">2月～3月：小論文作問ガイドの検討</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な結果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>達成事項</p> <p>①入試実施業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別選抜・編入学試験及び一般選抜の実施・監督要領を委員会で点検し、具体的な準備・実施方法について加筆修正した。 ・ 特別選抜・編入学試験監督者を対象に事前説明会をWEBにて実施し、問題なく終了できた（一般選抜試験はこれから実施予定）。 ・ 年度当初に年間の入試関連業務日程表を作成して教員に周知、また、採点業務担当者を例年より早めて8月に決定・周知し、協力を得られるようにした。

- ・ 要配慮申請のあった受験生に対し、要望を最大限に取り入れつつ他の受験生との公平性を鑑みた方法を委員会で検討し、実施した。
- ・ 大学入学共通テストを東都大学と共同で実施した。昨年度ミスがあった受験生への対応については全体及び班別説明会で具体的に説明し注意喚起した。課題となった連絡員と本部の連携については、本部員が試験本部に複数名常駐して対応した。また、本部班業務の問題引き渡し・解答受け取りについて具体的方法をマニュアルに追記して班別説明会にて説明し、昨年度の課題については問題なく進めることができた。今年度、試験当日に問題用紙袋・解答用紙袋の記載誤りが多く見られたり、リスニング再開テスト連絡票の未回収が生じ、新たに課題となった。

②入試問題の作成

- ・ 特別選抜・編入学試験、一般選抜試験における小論文及び専門科目試験問題について、作問チーム（各3名・計4チーム）と校正チーム（入試実施委員3名）を編成し、WEBによる検討会議を各3回実施、また、外部委託による試験問題の事前点検を学校推薦型と一般選抜で実施し、問題や採点基準の精錬を図った。今のところ、出題誤りも防止できている。
- ・ 作問作業の業務負担軽減に向け、副問題の積極的活用など具体策を検討し運営会議に諮り承認を得た。

③出願資格及び提出書類の検討と要項への記載

- ・ 特別選抜における通信制高校在学者の出願資格、高等学校卒業後長期間経過している場合の出願書類について入試改革検討委員会での検討を依頼し、選抜要項・募集要項に明記した。

評価結果の理由と改善策

- ・ 入試業務の公平・公正な実施に関しては、実施・監督要領の改善、事前説明会の実施、要配慮申請への対応検討・実施により受験生に不利益のない入試を実施できたこと、入試問題は外部業者の事前点検による助言も併せて適正に作成でき、出題誤りが生じていないことから、ほぼ目標通りの成果と評価した。
- ・ 今年度の大学入学共通テストで新たに生じた課題について、人員配置の見直し等を行う。
- ・ 学校推薦型選抜における通信制高校在学者の出願資格については、学内外から再検討の意見があり、継続検討中である。

申し送り事項

- ・ 選抜要項・募集要項の記載内容について見直し、改善を図る。
- ・ マニュアル化されていない入試業務（説明会、試験室点検など）のマニュアル化を進める。
- ・ 教員と事務局との役割分担を明確にし、ミスを防ぐようにする。
- ・ 仕分け作業、再開テスト連絡票回収の確実な実施に向け、人員配置等を検討する。
- ・ 収入証紙廃止に伴い、出願書類受付方法を検討し実施する。

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5特に優れている 4目標を上回っている 3目標に達している 2やや問題あり改善余地あり 1問題あり改善必要

（理由）特別選抜・編入学試験、共通テスト、一般選抜試験に関して、実施要領の更新・改訂や事前説明会を通して滞りなく実施することができた。また、作問作業の負担軽減を考慮して副問題の積極的利用について検討し、運営会議での承認を得たことは評価される。共通テストにおいて生じた課題に関し、対応策を検討することが期待される。さらに、当初目標に掲げていた採点業務の効率化・ミス防止に向けた対策についても検討することが期待される。

委員長：浅井美千代

面談者：細山田康恵（総括委員長）

面談日：2026年2月19日

自己点検・評価実施推進部会：広川由子

教務委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>① 新カリキュラムを円滑に運用する。</p> <p>② アセスメントポリシーに基づき、客観的な評価を行う。</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>① 新カリキュラム運用上の問題点を、学生アンケート評価結果をもとに抽出し、次期カリキュラム改正につなげる。</p> <p>② GPA を使って学生の履修状況を把握し、学生の学習支援につながるシステムの確立を目指す。</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>① 昨年度の学生評価アンケート集計結果がでたが、回収率に大きなばらつきがあり、評価が難しく、全体の回収率を上げる必要があると考えられた。</p> <p>② 今年度は着手できず、来年度も引き続き継続したい。GPA 単独での評価は難しく、各学科の具体的な取り組みを調査してから学習支援のシステムを構築することが重要であると考えられた。</p> <p>③ 学生ハンドブック改正（“やむを得ない事由があれば4年次後期に履修登録の修正を可能にする”を追記）を行った。</p> <p>④ 教務委員会主催の FD/SD(アクティブラーニングについて：千葉大学地域医療教育学：荒木信之先生)を行い、41名の教職員が参加した。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生アンケートの集計方法（紙媒体の併用、アンケートの配布・回収は事務職員が行う等）を検討し、次年度以降に実践し次期カリキュラム改正につなげる。 ● 各学科で GPA が低く留年のリスクが高い学生について各学科の取り組みを調査し、できる限り早い段階から支援できるような仕組みを作る。 <p>[申し送り事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生アンケートの集計方法を見直す。 ● 留年リスクの高い学生の支援策を考える。
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input type="checkbox"/> 3 目標に達している <input checked="" type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>新カリキュラムを円滑に運用する目標に沿って、運用上の問題点について学生アンケート評価結果をもとに抽出しようと活動が実行された。その結果、次年度に向けた新たな課題と改善策の提案がなされている。今年度着手できなかった、学生の学習支援につながるシステムの確立に向けた取り組みが期待される。</p>
<p>委員長：山本達也</p>
<p>面談者：細山田康恵（総括委員長）</p> <p>面談日：2026年2月18日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

FD・SD委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標 既存のFD・SDマップを基盤としてその概要を検討し、必要なFD・SDを効果的に実施するための仕組みを構築する。</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) FD・SDマップの見直しと活用</p> <p>①各委員会で審議し、実施計画および実施点検を実施する。 ②教育、研究、社会貢献、管理・運営の各分野においてFD・SDを計画し実施する。 ③必要不可欠（必須項目）となるFD・SD内容を選出し実施する。 ④研究の推進および競争的資金の獲得、さらに教育研究の資質向上を目的としたFD・SDを実施する。</p> <p>2) FD・SDの受講促進施策</p> <p>①Teamsを効果的に活用する。②参加者リストを管理し、受講促進に役立てる。</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な結果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>1) 各委員会、事務局がFD・SD開催の計画、実施点検を行い計9回のFD・SDを実施した。4回を必須項目とした。参加延べ数は411名（2026.2.27現在）。内訳は、①科研費申請の要点【必須】（43名）、②ハラスメント防止のためのアサーティブコミュニケーション研修【必須】（77名）、③医師不足地域のリハビリテーション病院の実態と教育実践（21名）、④教員資格審査の概要を中心として大学院設置までにすべきことについて（職員向け）（19名）、⑤教員資格審査の概要を中心として大学院設置までにすべきことについて（教員向け）（58名）、⑥職場出前講座「千葉県職員倫理条例について」【必須】（88名）、⑦機関リポジトリ運用について【必須】（64名）、⑨アクティブラーニングを「実践できる教育」へ（41名）、⑩研究倫理に関するFD（2026/3/4予定）であった。</p> <p>2) FD・SD開催情報を1つのTeamsに統合したことにより、FD・SD研修の周知、オンデマンド配信やアンケートの実施が円滑となり、情報管理の効率化を図った。また、FD・SDの出欠席名簿を作成し、管理体制を整えた。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>本年度の活動計画については、概ね予定どおり実行することができた。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>次年度も指針の見直しを行い、必要なFD・SDを継続的に開催できるよう体制を整える。また、「教員による相互授業参観」の検討を進める。参加者リストの管理方法について再検討を行い、TeamsやOutlookの予定表を活用して、より確実な受講管理と受講促進につなげる。</p>
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>活動計画に基づき、実施されていることが確認された。Teamsを効果的に活用し、教職員のさらなる質向上を計画的に進めることが期待される。</p>
<p>委員長：鈴鹿祐子</p>
<p>面談者：細山田康恵（総括委員長）</p>
<p>面談日：2026年2月18日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

学術推進企画委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>1. 本学の学術研究活動の活性化に努め、共同研究発表会の充実を図る。</p> <p>2. 学内共同研究課題の円滑な募集と審査 3. 外部資金、特に科研費獲得の推進</p> <p>4. 紀要の原稿募集と円滑な編集、発行 5. 研究データポリシー「解説・補足」部分の策定</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1. 学術研究に資するセミナーの企画と実施 2. 学内共同研究課題の円滑な募集と審査</p> <p>3. 外部資金、特に科研費の獲得の推進：外部委託による研究支援サービスを提供し、加えて科研費申請書作成に関する教授等への相談体制、採択された科研費申請書を閲覧できる体制を継続する。科研費等競争的外部資金および学内共同研究申請率(以下、科研費等申請率) 80%、科研費採択率 30%、を数値目標として設定する。</p> <p>4. 紀要の円滑な編集、発行 5. 研究データポリシーの「解説・補足」部分の策定</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術研究活動に資するセミナーを2件企画、実施した。6月に実施した「科研費申請の要点」は43名が参加、9月に実施した「医師不足地域のリハビリテーション病院の実態と教育実践」は21名が参加、アンケートへは、うち7名から、皆「満足」との回答を頂いた。 ・学内共同研究課題の募集と審査を円滑に実施している。 ・外部委託による研究支援サービスを速やかに提供した。科研費計画調書の添削は、13名が利用し、多数回利用者がいた。科研費申請スケジュール管理、オンデマンドによる科研費セミナー（21名が視聴）などを実施した。科研費申請率、科研費採択率は2月下旬以降に判明予定である。 ・紀要の原稿募集と編集、発行を円滑に行った。しかし、編集の過程で著者との間で問題が発生し、現在、関係者間で調整中である。 ・研究データポリシー「解説・補足」を策定した。3月3日の教授会で報告予定である。 ・第13回ダイバーシティ CHIBA 研究環境促進コンソーシアム連絡会に参加した。主に女性や若手の研究者が研究しやすいようなソフト面、ハード面での各施設の取り組みが紹介された。 <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>迅速な科研費申請支援ができた、コンソーシアム連絡会に参加した。科研費申請支援のセミナーとスケジュール管理は新年度、迅速に進めたい。紀要の査読ガイドラインに見直しが必要。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>学内共同研究発表会の対面開催、より安い価格で提供されている他の科研費申請支援サービス（ジャーラント社）の利用可否の決定、独法化以降のコンソーシアム連絡会との関わり、県への取り組み報告会を通じた研究者情報提供</p>
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>（理由）学術推進企画委員会が計画に基づき多面的な活動を着実に実施した点を高く評価する。科研費申請支援セミナーの開催や外部委託による研究支援サービスの迅速な提供は、研究力向上に向けた支援体制として評価できる。共同研究課題の募集・審査、紀要編集、研究データポリシー策定など、学内研究基盤の整備も概ね円滑に進められている。一方紀要の査読ガイドラインに見直しや、科研費申請支援のセミナーと計画管理的取り組みが望まれる。</p>
<p>委員長：金子徹</p>
<p>面談者：細山田康恵（総括委員長）</p>
<p>面談日：2026年2月19日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

学生委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生ハンドブック「学生生活」に照らした学生支援を実施し、充実した学生生活が送れるようにサポートする。 ・ホームカミングデイや同窓会/分科会活動の推進に務め、卒業生に対する教育支援やキャリア形成支援体制を整備できるように着手する。
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p style="margin-left: 20px;">13分野の取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学内整備：学内環境を点検し、事務局と連携して、Wi-Fi 環境やトイレの洋式化を進める ② 学生会：新役員への活動支援（新入生歓迎会やサークル活動など）を行う ③ いずみ祭：企画から実施まで、全委員でサポート体制をとる ④ 自販機、キッチンカー：学生さんからの要望にそえるように努める ⑤ 卒業式：式歌の練習をサポート、同窓会からの花の設置 ⑥ 学生対象セミナー：ブラックバイト、DV 予防等の動画を配信する ⑦ 同窓会との連携：同窓会/分科会活動の推進に務め、教育支援等の体制整備に着手する ⑧ 学生からの相談内容の把握：昨年度のアンケート結果を踏まえ、対策の必要性を検討する ⑨ 幕張キャンパス駐輪場の管理：駐車マナーの周知および必要に応じた駐輪場の整備をする ⑩ 後援会との連携：加入者増加への支援を行う。後援会から頂いた備品の管理をする ⑪ 教員向け FD 開催：「学生支援のあり方、障害のある学生への支援等」についての講演を企画 ⑫ 学生向け講演：防犯講話「犯罪に巻き込まれないように、特殊詐欺や薬物関係」のを企画 ⑬ 新入生 WEB 講習：AED の取り扱いの知識をつけていただくため、消防庁がインターネット上で公開している「応急手当 普通救命講習編」を受講してもらう
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p>□ 5 大変満足のいく成果 □ 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 □ 2 やや不満足の結果 □ 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① Wi-Fi 環境やトイレの洋式化は企画運営課が進めた。その他、教室の机や椅子に関しては、後援会で検討後、総務委員会が購入予定であることを確認した。 ② 前半は Teams を利用し、後期は対面会合を定期的に関いた。学生の自立性を尊重し、かつ、お互いのコミュニケーションを対面でも図れるよう配慮した。 ③ 模擬店の準備は栄養学科学生委員、保健室待機は医系学生委員の協力を得て実現した。その他、学生会役員会による広報、パンフレット作りをサポートし、学科専攻別企画、ステージ企画等、無事開催した。当日途中雨天となり、模擬店を屋外から学生ホールへの移動等の対応をした。 ④ キッチンカーを授業期間中に週 2 回実施、来年度も継続予定。加えて、パン屋検討中。 ⑤ 現在準備中。卒業式後および各学科専攻学位記授与式後の写真撮影を業者と確認した。式歌「揚げば尊し」の指揮者、ピアノ演奏を 4 年生から決定した。後援会、学生会、同窓会からのお花、お菓子等を準備中。 ⑥ 千葉労働局制作のブラックバイトセミナー、千葉県健康福祉部制作のデート DV 予防セミナーを 8 月に Teams 配信した。視聴回数は 22 回（19 名）と 10 名で、受講アンケートは全て「参考になった」であり、視聴人数が少なくとも継続の意義はあると考える。 ⑦ 同窓会総会（書面）を 5 月に開催した。今後は年度末の 2 月～3 月に定期開催することとなり準備中。いずみ祭支援等依頼した。 ⑧ 前期アンケート（回収率 59%）では「学習に関すること」「キャリア形成」「学習環境支援に関すること」の相談が多いのが例年の傾向通りで、実施中の後期アンケートでは例年通りであれば「心の健康」に関する質問が増えると予想される。 ⑨ 駐輪場の掲示張替、白線の引き直し等の整備をし、駐輪スペースの位置を分かりやすくし、自転車の無断駐輪を減らすことが出来た。

- ⑩ 後援会の新生加入率は 67%（昨年度 71%）であった。5 月総会はハイブリッド形式で開催し、各学科専攻長より後援会会員＝保護者に対して学生や授業・実習等に関する報告が行われた。広報誌「いずみ」にて学長・副学長・学部長・各学科専攻長の新年度挨拶、いずみ祭報告、学科専攻の実習紹介、卒業生の各保健医療職の経験談と掲載し、会員に郵送、教職員と学生に配布した。いずみ祭支援、学生サークル支援に関して学生会学生より後援会理事会にて相談、活動報告等行った。年度末に幕張キャンパス学生ホールに電子レンジ 1 台を寄贈頂いた。
- ⑪ 「学生支援」に関する充実した FD・SD を過去数年間実施しているところで、本年度は実施しないこととした。また、「障害のある学生の支援（合理的配慮）」に関連して、申請および検討を明確化かつ効率化するために、申請書等を改正した。
- ⑫ 西千葉警察署により、闇バイト、薬物中毒、ネット犯罪等について防犯講話（対面）を実施した。初めて 4 月健康診断の午後実施。新生 125 名、2 年 1 名の合計 126 名、多数の参加を得た。
- ⑬ 応急手当 WEB 講習を 4 月末より 1 か月間実施した。1 年生全員講習終了証を提出し受講済。

[評価結果の理由と改善策]

13 分野の取組を⑩FD・SD 以外全て実施した。加えて

- (1) 「⑩障害学生支援（合理的配慮）」をスムーズに進めるべく申請書等変更し、学生ハンドブックにより詳しい説明を掲載することとした。
- (2)（重点施策）卒業生に対する教育支援やキャリア形成支援体制の構築に向けて、学科専攻ホームカミングデイにてアンケート実施、卒業生の教育支援を検討した。一つの試みとして、教職員向けに実施している FD・SD のうちから、現役保健医療職にも適切なテーマの場合は卒業生にも告知をすることを提案し、FD・SD 委員会で承認された。

[申し送り事項]

新生対象防犯講話は前年度委員会での開催日時変更は参加者大幅増につながったので継続する。学生会、いずみ祭、同窓会、後援会など、学生委員会で引続き迅速かつ柔軟に対応することに務める。

<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>（理由）年度当初に立てられた目標はほぼ達成されており、学生生活をサポートするための活動が十分に実施されていたと評価される。特にキッチンカー誘致や駐車場の整備、後援会との連携による電子レンジ購入など学生生活を充実させるための環境整備がされた。今後は、学生アンケートを参考にしながら、さらなる学生生活の充実を図り、卒業生に対する教育支援やキャリア形成のための体制づくりが望まれる。また、障害学生支援のための体制づくりも併せて検討していくことが望まれる。</p>
<p>委員長：神田みなみ</p>
<p>面談者：細山田康恵（総括委員長）</p>
<p>面談日：2026 年 2 月 17 日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

進路支援委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所掌事項に関する活動を計画的に実施する。 ・県内就職率の向上や全学科専攻での国家試験合格率 100%をめざし、各学科専攻と連携を図り、大学全体で取り組んでいく。
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に3年次生を対象にしたキャリアセミナーを年3回、ジョブカフェを年3回実施する。 ・年度当初に、国家試験受験対策および就職進学支援の年間計画を学科専攻ごとに企画し、委員会開催時に進捗状況を把握し、学科間で情報共有を図り、活動に役立てる。
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>① 進路支援計画に沿い、全学及び各学科専攻で進路支援や国家試験受験対策が実施できた。</p> <p>② キャリアセミナーは例年同様に3回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 8月8日(木) 1部は全学で「就活の進め方」について、2部は各学科専攻別で「採用者はここを見る！現場の求める人材とは？」 ・第2回 8月21日(木)「公務員として医療職を目指す学生への業務説明会」（看護師、保健師、管理栄養士、歯科衛生士）成績発表オンライン化により初のハイブリッド開催。 ・第3回 3月11日(火)「就職活動に必要なマナーのツボ」 <p>③ ちば若者キャリアセンタージョブカフェ就職支援セミナーを年3回実施した。第1回6月16日(月)「自己PR作成セミナー」、第2回9月24日(水)「エントリーシート対策セミナー」を実施できた。第3回2月26日(木)「面接課題発見セミナー」を実施予定。</p> <p>④ ハローワークによる個別就職支援は幕張月曜日、仁戸名火曜日の毎週相談日を設定した。</p> <p>⑤ 加えて、求人票及び求職票についてオンライン化の準備を進め、年度末より開始する。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>キャリアセミナー第1回は148名、第2回は対面で12名、オンライン29名の計41名の参加者があった。アンケート結果では、「参考になった」という回答がほとんどで好評であった。ジョブカフェ第1回看護学科13名参加、第2回17名参加した。アンケート結果では、全員が満足、概ね満足との回答で好評であった。今後の実施予定の第3回も含め、継続していきたい。</p> <p>ハローワーク個別就職相談には、看護12名、栄養5名、歯科1名、理学3名、作業2名の計23件の予約があり、進路支援室の利用者は延べ人数で看護216名、栄養27名、歯科22名、理学11名、作業0名の計276名であった。求人票オンライン化で利便性が高まることが期待される。</p> <p>[申し送り事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回キャリアセミナーがハイブリッドで実施した割に期待した参加人数とは言えず、公務員を現在志望する学生に限らず、より多くの学生に意義を伝えて、参加を呼び掛けたい。 ・今後予定されている国家試験オンライン化への対応が求められる。
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由) 県内就職率の向上や全学科専攻での国家試験合格率 100%の目標に沿って、3年次生を対象にした具体的な活動がなされた。その結果、参加学生からは好評な回答を得られた。今後は、「求人票の利便性の向上」「国家試験オンライン化への対応」という課題への取り組みに期待される。</p>
<p>委員長：神田みなみ</p>
<p>面談者：細山田康恵（総括委員長）</p>
<p>面談日：2026年2月17日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

研究倫理審査委員会 活動達成状況点検・評価表 (2025 年度)

<p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究倫理審査の公正な実施 学科研究倫理審査委員会(卒業研究向け)の仕組みの再検討 「データ収集と管理に関する研究倫理審査委員会の指針」の改訂
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月1回定例開催される研究倫理審査を公平・公正に運営する 現在の学科研究倫理審査委員会(卒業研究向け)が「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に抵触しているため指針に沿った仕組みを再検討する 本委員会の管理する「データ収集と管理に関する研究倫理審査委員会の指針」の内容が古く現在の情報インフラにそぐわなくなっているため改訂を検討する
<p>3. 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p><u>1. 研究倫理審査の公正な実施</u> 研究倫理審査委員会全10回を滞りなく開催した。</p> <p><u>2. 学科研究倫理審査委員会(卒業研究向け)の仕組みの再検討</u> 卒業研究の倫理審査を規定する「千葉県立保健医療大学卒業研究倫理審査規程」を国の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を踏まえた内容に改訂した。</p> <p><u>3. 「データ収集と管理に関する研究倫理審査委員会の指針」の改訂</u> 研究倫理審査申請時の研究データの取扱を規定する「データ収集と管理に関する研究倫理審査委員会の指針」を廃止し新たに個人情報保護法等を踏まえた「千葉県立保健医療大学臨床研究の実施における個人情報等の安全管理に関する指針」を策定した。</p> <p><u>4. その他</u> 本学教員の研究倫理に関する知識の底上げのため研究倫理専門家を招聘しFDを開催した。本学研究倫理審査委員会で承認した研究課題の実施過程や他学研究倫理審査委員会で承認した研究課題の実施過程で生じた研究倫理上の問題について適宜コンサルテーションを受け対応した。</p> <p>[評価結果の理由と改善策] 年度当初に上げた目的は達成したため。</p> <p>[申し送り事項] 本委員会の審査は人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則って実施しているが、今年度に質的研究を申請した研究者より「審査コメントが研究手法の特性を踏まえていない」との意見があった。委員構成が生命科学系に比較的偏在している現状から、質的研究の方法論に対する委員会全体の理解が十分でない可能性はあり、今後、質的研究の知見を有する委員の割合の見直しを含む、多様な研究手法に対応した審査体制の整備を検討する。</p>
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p>
<p>(理由)</p> <p>卒業研究の倫理審査の仕組みを検討・改訂した成果は大きいと評価される。FDにより大学全体の研究倫理の質向上への取り組みもなされていた。質的研究の特性を踏まえた倫理審査が課題となっていることから、審査者が質的研究法について理解を深めたり、質的研究を熟知した委員を配置したりするなど、多様な研究に対応するための倫理審査上の課題解決が期待される。</p>
<p>委員長：太和田暁之</p>
<p>面談者：細山田康恵 (総括委員長)</p>
<p>面談日：令和8年2月18日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

国際交流委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外における国際交流活動を促進する。 ・多（異）文化交流を体得できる学びの機会提供に取り組む。
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本学と神田外語大学の共催で行われる「外国語による応急処置体験講習」について、2025年度も継続開催（第5回）し、外国語（英語他）で応急処置を学ぶ機会を提供する。両校の学生間交流の充実とコミュニケーション能力の向上、受講者における高い満足度（受講後アンケートの満足度；80%以上）を目指す。 ② 国際理解教育の一貫として、本学学生と留学生を含む海外の方との交流イベントの企画・実施により、互いに多文化理解を深められる機会を提供する。 ③ 国際的な視野を持ち、社会の根幹を担う保健医療専門職者を輩出するべく、現下の国際情勢を学び、世界を広く知ることを目的とした学生対象のセミナー開催・企画について検討する。
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本学と神田外語大学の共催で行われる「外国語による応急処置体験講習」は、令和8年3月8日に実施予定である。今年度初めての試みとして、神田外語大学の留学生参加も視野に、英語で作成した講習案内ポスターも準備し（両大学合わせて定員30名）、1月21日より参加者募集を開始したところである。応急処置の際の英会話表現と手技の体験、習得に加え、両大学の学生交流の時間にも配慮したセミナー構成とし、演習時はもちろん、昼食時間も活用した両大学の学生交流の時間を確保している。異分野を学ぶ学生同士の交流と応急処置経験を積むことで、保健医療と語学というそれぞれの専門性を発揮し、相互の教育に貢献することを目指すものであり、受講者事後アンケートの結果を通して、今年度内に満足度を含めて講習内容について評価する予定である。 ② 留学生を含む海外の方との交流として、2025年春学期（6月2日から7月23日）に開講された神田外語大学留学生別科の授業へのクラスビジター参加が挙げられる。授業では、米国、英国、スペイン、韓国、中国等、十数か国にのぼる様々な国籍の留学生が、自分の国や町をテーマとしたプレゼンテーションを行った後、クラスビジター（本学からは10名の学生が参加）が質問や感想を述べ、留学生・ビジター双方で意見交換を行うことができた。授業に参加した本学学生からは、“「留学生が日本に来て驚いたこと」というテーマの発表が面白かった”などのコメントが寄せられ、留学生との交流を通して、有意義な時間を過ごすことができた。この様子は本学ホームページ（https://www.pref.chiba.lg.jp/hoidai/gakusesekatsu/r7classvisitor.html）にも掲載されており、次年度以降も交流継続を検討していきたい。また令和8年8月でインジェ大学との交流協定の有効期限が終了を迎えるにあたり、協定延長の方針とし、今後の具体的な活動内容について検討した。両大学の学生が日韓の言語や文化の違いについて、オンラインでディスカッションを行い、学生が異文化を理解し多文化共生力を養うことを目的とした交流イベント実施を視野に、次年度以降も継続的に交流の在り方について検討していく予定である。 ③ 本邦において外国籍の居住者が増え、日常生活でも海外の方とコミュニケーションをとる機会が増えている中、世界共通の価値観や課題について考える機会を学生に提供するべく、豊富な海外経験（米国、モスクワ、マイアミ、コロンビア・中南米等）を持つ講師（株式会社オフィスバスターズ代表取締役会長天野太郎氏）迎え、「海外・国内での施設環境・コミュニケーションにおいて大切なこと」をテーマに国際交流セミナーを開

催した。金曜日夕方の時間帯開催のセミナーであったが、多くの学生が参加し、質疑応答の時間には、学生と講師の間で活発な意見交換がなされた。

[評価結果の理由と改善策]

- ① 本講習は今年で第5回を迎え、神田外語大学と打ち合わせにおいては、令和7年度までの経験や反省を踏まえた講習構成とし、今年度は留学生を含めた参加者募集を検討することができた。参加者事後アンケートを踏まえて、より良い講習となるよう尽力・継続していきたい。
- ② 昨年度は、マヒドン大学留学生との対面での交流イベントを実施し、セミナー後のアンケートでは「実際に海外の方と交流する機会が得られたことが良かった」というコメントを踏まえて、今年度も実際に海外の方と交流できる機会を学生に提供することを目標のひとつとした。今年度は、マレーシア国民大学学生との交流についても検討しており、委員の先生方の献身的な尽力の下、医療機関見学を含めた交流を模索していたが、先方（マレーシア国民大学）の準備が今年度中に調整することができず、実現には至らなかった。一方、今年度新たな試みとして、①でも交流のある神田外語大学留学生との交流機会を持つことができたことから、今後も本学学生と留学生を含む海外の方と交流を持つことで、互いに多文化理解を深められるような機会を提供していきたい。またインジェ大学との交流については、高齢化が進む日本と韓国の医療課題やリハビリテーションの現状について、学生が学びを深めるような交流の機会も検討していきたい。令和8年1月末現在、インジェ大学側からも協定延長について同意を得ており、協定延長手続きの準備を進めているところである。
- ③ 国際交流セミナーでの参加者の様子およびコメントから、これからの多文化共生社会に生きる学生にとって、学びの多い有意義な時間を過ごすことができたと考えられた。今後も語学の習得という観点に加え、国内外の最新の国際情勢や社会課題について学べるようなセミナー企画を検討したい。

[申し送り事項]

- ① 本学と神田外語大学の共催で行う「外国語による応急処置体験講習」は、次年度以降も継続開催する。
- ② 県内在住留学生（大学生）と本学学生との交流会イベントの企画・検討を行う。インジェ大学との交流の在り方については、継続して検討する。
- ③ 国際情勢に関するセミナー企画により、国内外の最新の国際情勢や社会課題について、学生が学ぶ機会の提供を検討する。

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5特に優れている 4目標を上回っている 3目標に達している 2やや問題あり改善余地あり 1問題あり改善必要

(理由)

国際交流講習や留学生との交流機会を計画通り実施・準備し、多文化理解を促進する取り組みが概ね達成された。新たな交流企画にも発展がみられ、次年度への継続性も確保できた。ほぼ目標に達しているが、満足度の数量化もしくは、量的評価に準ずる記載が今後望まれる。

委員長：谷内洋子

面談者：細山田康恵（総括委員長）

面談日：2026年2月17日

自己点検・評価実施推進部会：広川由子

図書委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>① 学生の図書館利用及び文献活用を推進する。</p> <p>② 学生教育及び教員の研究活動に資する資料の収集・整備を継続する。</p> <p>③ 卒業生等の学外利用者の増加を図る。</p> <p>④ 機関リポジトリ運用指針を作成し、FDの実施、運用を開始する。</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>① 全学共通の文献検索ガイダンス，セミナーを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献検索セミナー1回（3年生対象、オンデマンド）を開催し、評価・改善を行う。 ・文献検索ガイダンス5回（学科専攻毎）を開催する。オンデマンド教材を作成し、繰り返し視聴できるようにする。実施後の評価から改善を行う。 ・文献検索実地研修は、LL教室を使用してPCを使用して行う。 <p>② 学生向けの推薦図書を配架する。 電子ジャーナルへの移行促進等、計画的に予算を執行する。</p> <p>③ 学外者に対する図書館の情報発信を充実する（卒業生への情報発信、図書館便りの評価・改善、HPへの掲載、他）。</p> <p>④ 機関リポジトリの作成、運用を開始する。</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な結果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>①学生の図書館利用及び文献活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の図書館利用者数（2025年4月～2026年1月）は、幕張図書館では33,077人（前年度より2,154人増）、仁戸名図書館では2,949人（前年度より456人減）であった。 ・文献検索セミナー1回（3年生対象、オンデマンド）を実施した。 ・文献検索ガイダンス（3年生対象、実地研修4回・オンデマンド1回）を実施した。文献検索ガイダンス参加人数は、栄養学科 26人、歯科衛生学科 22人、理学療法学専攻 26人、作業療法学専攻 27人で、オンライン視聴する看護学科は、前半コンテンツ 73人視聴、後半コンテンツ 43人であった。 ・また実地研修においてはすべてLL教室でPCを使用し、実際に操作できる環境を整えた。 ・オンデマンド教材については作成中であり、年度末までの完成を目指している。 <p>②推薦図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科・専攻別予算と全体調整予算とに分け、各学科・専攻が推薦する図書を予算内に効果的、有効に購入できるよう進めた。1月現在637,337円の残額があるが、予算額を超えた場合の書籍配分方法を決定して、年度内に執行できるよう進めている。 <p>③学外利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに卒業生への図書館利用の案内を送付し、また図書館便りやホームページによる情報提供を行っている。 ・学外者の来館者数（延べ人数、2025年4月～2026年1月）は、幕張図書館 481人（オープンキャンパス参加者含む）、仁戸名図書館 84人であった。 ・千葉県内図書館横断検索システムに参加することになり、2026年1月から千葉県内図書館横断検索の「大学・類縁機関」に本学図書館が掲載されている。 <p>④機関リポジトリ運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年6月に本学機関リポジトリ運用指針が大学運営会議で承認された。令和7年12月に教職員対象のFD/SD実施、事務手続きを経て令和8年1月から運用開始となり、JAIRO Cloudへ登録体制を整え、2026年2月から公開となった。紀要第14～16巻の登録を開始した。 <p>[評価結果の理由と改善策]</p>

<p>①学生の図書館利用及び文献活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献検索セミナーにおいて、アンケート結果より、設問項目への評価は「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が9割近くを占めたが、方法に工夫がなされていたかについては「どちらとも言えない」が2割ほどあった。 ・文献検索ガイダンスでは、アンケート結果より「ガイダンスを受ける前に比べて文献検索に関する理解が深まった」という項目に「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した参加者が9割以上であった。オンデマンド教材については、早い時期に完成することができなかったため、次年度に教材を改善する場合は、早めに取り掛かるようにしたい。 <p>②推薦図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度第3回の推薦において、予算を上回る推薦があった。優先順位も併せて聞いており、予算を上回る推薦に対しても、今年度必要とされる資料はもれなく購入でき、また次年度購入する目途を立てることができた。また、ISBNで書誌事項を表示できるツールを配り、推薦リスト作成につき簡素化を図った。 <p>③学外利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外利用について図書館便りやHP上にも掲載し、千葉市図書館情報ネットワーク加盟館紹介展で配布もした。学外者の来館者数について、昨年度とほぼ同じくらいの利用がある。 <p>④機関リポジトリ運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年度中に機関リポジトリ運用指針を作成し、本学の機関リポジトリについて明確にし、本学の教育、研究、社会貢献における成果を機関リポジトリに登録し、公開する体制を整えた。 ・2024年度以降に掲載された論文の研究データの公表について、検討することになった。 <p>[申し送り事項]</p> <p>①学生の図書館利用及び文献活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の図書館利用及び文献活用を推進する。 <p>②推薦図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生向けの推薦図書を配架する。 ・電子ジャーナルへの移行促進等、計画的に予算を執行する。 <p>③学外利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外者に対する図書館の情報発信を充実する（卒業生への情報発信、図書館便りの評価・改善、HPへの掲載、他）。 <p>④機関リポジトリ運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の教育、研究、社会貢献における活動成果を機関リポジトリに登録、公開する。
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5特に優れている <input type="checkbox"/> 4目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3目標に達している <input type="checkbox"/> 2やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>今年度は機関リポジトリ運用に向けた活動が本格化され、FD/SDの実施や登録のための体制づくりを行ったことは評価される。本学の充実した書籍や文献をより多くの学生や卒業生、さらには学外からも利用してもらえるような体制づくりが期待される。</p>
<p>委員長：酒巻裕之</p>
<p>面談者：細山田康恵（総括委員長）</p> <p>面談日：2026年2月18日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

社会貢献委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>①社会貢献活動に関するFD/SDを開催し、本学が果たす社会貢献の質向上を図る。</p> <p>②行政や関係機関のニーズを踏まえ、本学の研究成果および公開講座を企画・実施する。</p> <p>③県民の生活の場における健康づくりに資するほい大健康プログラムを行政や関係機関との連携、および県民のニーズを踏まえて企画・実施、評価し、改善策を検討する。</p> <p>④出前講義依頼への対応および集約方法を仕組み化する。</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①本学の社会貢献活動に関するFD/SDを1回開催する。</p> <p>②本学の研究成果に関連するテーマを設定し公開講座を来場型とオンライン型のハイブリッド形式で1回企画・実施する。</p> <p>③「ほい大健康プログラム」に関するニーズを行政や関係機関との連携により焦点化し、目的を明確化した上で、これまでの実績を踏まえてUR団地、いすみ市、幕張キャンパスで各2回程度ずつ企画・実施、評価し次年度の企画につなげる。</p> <p>④出前講義の対応フロー、集約蓄積方法、県内・学内への周知方法を検討、仕組み化する。</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な結果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>①今年度は実施せず、次年度に実施予定。</p> <p>②「もしものとき、暮らしと健康を守る」をメインテーマとし、いずみ祭との同日開催で、2年間で4学科開催として、今年度は看護、栄養の2学科の講師による公開講座を開催した。ハイブリッド形式で来場者72名、オンライン32名であった。講演内容や開催方式に対し概ね肯定的な評価で目標を達成できた。</p> <p>③「ほい大健康プログラム」について、千葉市内UR団地で2回、いすみ市で1回実施した。延べ参加者77名、学生16名（UR団地57名、学生協力10名、いすみ市20名、学生協力6名）の方に参加いただき、満足度は大変高く目標を達成できた。また、いずみ祭において社会貢献委員会ブースとして、オーラルフレイルチェック（歯科衛生学科）・肺年齢チェック（理学療法学科）、作業療法士と知る健康な生活のコツ（作業療法）を開催し、2日間で延べ106名にご参加いただいた。</p> <p>④委員会内においてディスカッションを実施した。また、元社会貢献委員長の島田美恵子名誉教授へのヒアリングを行う等の情報収集を行った。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>①今年度は、大学院設置にむけた社会貢献の枠組みも再考する必要があることから、県民ニーズの反映や、地域との協働等の新たな試みを導入したところでありFD開催は見送った。次年度に、今年度の成果を踏まえ今後のあり方を検討するFDを開催する方向性で検討中である。</p> <p>②昨年度の参加者アンケートを基に企画を検討し、いずみ祭との同日開催および1講演の時間を十分確保した。参加者満足度は高く、焦点を絞った内容を提供できたことがよかったと評価し、次年度の結果も踏まえ今後の改善策を検討する。</p> <p>③UR団地との複数回にわたる企画検討会議の実施等による県民ニーズのヒアリング等を丁寧に行い協働で企画したことにより、昨年度比参加者37.5%増となった。地域主導のコラボレーション型の社会貢献のあり方の一つともいえる。UR団地とは継続的に評価可能な健康指標を用いることも検討している。これらを基に持続可能な開催方法をさらに検討する必要がある。いずみ祭での社会貢献委員会ブースは、中講義室がメイン会場から離れて、場所がわかりにくいという課題があった。次年度は開催場所について再検討する。</p> <p>④県民ニーズと大学側で提供可能な社会貢献のマッチング機能（出前講義やボランティア派遣も含め）の枠組みや仕組みを検討する。</p> <p>[申し送り事項]</p>

<p>①FDを実施する。</p> <p>②いずみ祭との同日企画として、テーマ、内容を検討する。</p> <p>③県民から求められる大学の社会貢献のあり方を再考する。</p> <p>④県民ニーズと大学側で提供可能な社会貢献のマッチング機能（出前講義やボランティア派遣も含め）の枠組み、仕組みを検討する。</p> <p>その他、本学の社会貢献に関する発信について広報委員会等との協力も含めて検討する。</p>
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5特に優れている <input type="checkbox"/> 4目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3目標に達している <input type="checkbox"/> 2やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1問題あり改善必要</p>
<p>(理由)</p> <p>4つの目標に沿って、公開講座の企画・実施や、行政・関係機関と連携した「ほい大プログラム」および出前講義のためのディスカッションなどの具体的な活動がなされた。その成果として、特に「ほい大プログラム」では 千葉市内 UR 団地およびいすみ市で、延べ参加者 77 名の方に参加いただき、高い満足度を得られている。次年度は社会貢献活動に関する FD/SD の開催への取り組みが期待される。</p>
<p>委員長：市原真穂</p>
<p>面談者：細山田康恵（総括委員長）</p> <p>面談日：2026年2月19日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

自己点検・評価委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>(1) 「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して学内の円滑な自己点検・評価を推進する。各委員会の所掌の確認や連携の検討を継続する。</p> <p>(2) 大学機関別認証評価の評価報告書における指摘事項への対応を進める。</p> <p>(3) IRの機能の促進をはかる。</p> <p>(4) 大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しを提言する。</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>(1) ①令和6年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開する。 ②各部会の年間スケジュールにしたがい、部会の所掌事項を推進していく。 ③委員会の令和6年度目標達成度から、委員会の所掌について検証する。</p> <p>(2) ①評価報告書の指摘事項への対応を、責任部署で計画に従って進めるよう促す。</p> <p>(3) ①卒業時調査や適宜実施される学生調査の分析、結果を公表する。 ②IRコンソーシアムの活用により、分析データを公表する。 ③各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業を継続する。 ④教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を継続する。</p> <p>(4) ①(1)～(3)に基づき、大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しを提言する。</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>(1) ①2/27 提出〆切、3/11 完成、3/23 自己点検評価委員会に提出予定で実施中 ②各部会では予定通り計画を実施中 ③3/23 以降実施予定</p> <p>(2) ①担当委員会へ依頼済み。</p> <p>(3) ①本年度より IR コンソーシアムから全国学生調査へとデータの収集方法を変更した。卒業時調査および全国学生調査のデータ収集は実施中である。 ②2021年と2024年のデータを分析し、2024年度卒業生の1年次と4年次のデータを比較中である。また、2018年に分析されたデータと2024年次のデータを比較し大学の経年変化を確認中。公表は次年度以降。 ③INDEX作業について、次年度以降、必要な情報の整理とシステムの検討を行う。 ④教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を継続した。</p> <p>(4) ①計画通り実施中である。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>計画通り実施されている。</p> <p>[申し送り事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2027年大学機関別認証評価ワークショップ参加に向け、次年度は情報収集・準備を実施する。 ● 分析したIRコンソーシアムのデータを公表する。 ● 2029年度第2期大学機関別認証評価で新たに求められている基準2・3の事項（①継続的な研究成果の創出のための環境整備に関する事項（基準2教育・研究の水準の向上）、②学修成果の適切な把握及び評価に関する事項（基準2教育・研究の水準の向上）、③特色ある取り組みをどのように進展させようとしているのか（基準3特色ある教育研究の進展））について、担当委員会へ取組をまとめてもらうように依頼する。
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p>

全国学生調査と卒業時調査が計画通り実施されている。今年度は結果公表にとどまらず、年次比較といった分析を開始することで、自己点検・IR機能の強化する取り組みが確認された。継続的な分析・評価により、教育の改善を図ることが期待される。

委員長：堀本佳誉

面談者：佐藤紀子（総括委員長）

面談日：2026年2月13日

自己点検・評価実施推進部会：広川由子

将来構想検討委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>① 本学の機能強化の方針に基づき進められる大学院設置や法人化に向けた準備状況に関する情報収集と情報の共有化をはかり、必要に応じ、委員会として検討を行うなど、推進に向けた役割を果たす</p> <p>② 千葉県立保健医療大学の将来に向けた重点施策を推進する</p> <p>③ 社会貢献・シンクタンク機能の強化に向けた取り組みを推進する</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>① 教員懇談会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院設置や法人化に向けた進捗状況などについて、定期的に教員懇談会を開催し、本学の機能強化に関する大学全体の動きや健康福祉部における動向について、教員全体への情報提供を行う。また必要に応じて教員からの意見収集を行い、検討に反映させる（年3回程度開催）。 <p>② 令和7年度の各委員会・学科専攻の重点施策の目標・評価の点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月初旬に重点施策の担当（責任）部門等に令和7年度の目標と評価指標の設定を依頼 ・本委員会で各項目の点検担当を決定し、目標および評価指標の妥当性を検証。適宜、修正を依頼し、6月末に確定 ・2～3月に同様の手順で、今年度の評価検証を実施 <p>③ 健康福祉部への取組報告会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉部関係課の本学への理解・関心を促進するとともに、今後の取組に反映させるための意見交換を実施（10～11月頃を予定）
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>① 大学院設置や法人化に向けた進捗状況については、大学院プロジェクトチームが中心となり6月・12月に説明会が実施されたため、委員会主催の説明会は不要であった。県医療整備課の検討状況を見据えつつ、本学の機能強化、特に附属センター機能について、委員会で検討を開始した。</p> <p>② 4月に令和7年度の重点施策の目標・評価の点検のための体制を整備。5月に関係部門に目標・評価指標の設定を依頼し、点検・修正後、6月の全学運営会議で報告し承認を得た。1月末に関係部門に今年度の達成状況の評価を依頼し、委員会で検証した結果を3月の運営会議で報告する。</p> <p>③ 11月11日（火）15時30分～16時30分 千葉県庁本庁舎において取組報告会を実施。参加者28名（健康福祉部16名、本学12名）。詳細については令和7年度大学紀要に掲載。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>目標①に関しては、具体的な取り組みには至らなかったが、大学院設置に向けた教員への情報提供は、大学院プロジェクトチームの活動により適切に行われた。目標②に関しては、関連する部署に評価を依頼しているところであるが、計画としては例年どおりの進捗であり、3月の大学運営会議で報告できる見通しである。目標③については、計画通りに実施することができた。県の健康政策担当者と本学教員とで、活発な意見交換を行うことができ、意義ある取り組みであったと評価する。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>令和8年度には基本計画が策定され、大学院設置、法人化、キャンパス統合が具体的に進められる。複数の検討が同時進行で進むため、医療整備課との調整をはかりながら、必要に応じて委員会での検討を進める。合わせて各学科専攻や関連委員会、大学院準備室（新設）等の検討状況を把握</p>

しながら、委員会として進捗状況を管理し、必要に応じて教員懇談会や情報共有会の場を設ける。健康福祉部への取組報告会は継続して実施する。

5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要

(理由)

重点施策の点検体制を整え、目標設定・評価のプロセスを計画通り進めた点が評価できる。また、健康福祉部との報告会では有意義な意見交換が実現した。大学院設置等に関する委員会の情報について共有機会の強化が今後の課題である。来年度は複数施策の同時進行に対応した調整機能の発揮が期待される。

委員長：河部房子

面談者：佐藤紀子（総括委員長）

面談日：2026年2月18日

自己点検・評価実施推進部会：広川由子

総務・企画委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>① 優先順位に基づく学内環境（教室の机・椅子、空調設備、プロジェクター等）の整備</p> <p>② 令和8年度に向けた予算要求</p> <p>③ 整備計画に基づく学習環境設備の進捗状況の検証、教員および学生による継続的な評価</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>① 令和7年度の学内環境の整備については、各学科専攻に対して行った意向調査に基づき優先順位をつけ、順次整備する。 4月：全学整備品および各学科専攻等の備品は、意向調査に基づき優先順位を決定する。 5月以降：優先順位にしたがって順次整備を行う。</p> <p>② 令和8年度の予算請求は各学科専攻に対して行った意向調査および長期整備計画に基づき行う。</p> <p>③ 各教室の机・椅子などは長期計画を立てて整備する。</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満足な結果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>①全学整備備品について優先順位に従い整備を進めることができた。エアコンやプロジェクターの故障など緊急性の高い項目については、執行状況を整理しながら柔軟な対応をおこなった。</p> <p>②各学科専攻の意向調査、長期整備計画に基づき予算要求を行うことができた。</p> <p>③整備計画に基づいた椅子・机の整備は終了した。今後の整備のため耐用年数を考慮した整備状況のとりまとめをおこなった。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>活動計画に基づき学内環境整備、予算要求など実施し、ほぼ目標どおりに活動することができた。施設整備についての要望に対応できていないものもあるため、引き続き整備を進める必要がある。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>長期整備計画の策定を進める。</p>
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>年度初めの目標はほぼ達成されており、全学備品に関して、優先順位を付けて対応し、教職員や学生の健康や教育に関わる緊急性の高い備品に関しても柔軟に対応していた。整備計画に基づく机を椅子の整備は終了し、今後の入れ替え時期等に関する検討もすることができた。現在も耐用年数の超過による備品の故障が続いているため、計画的に整備を行っていくことが期待される。</p>
<p>委員長：平岡真実</p>
<p>面談者：佐藤紀子（総括委員長）</p>
<p>面談日：2026年2月20日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

広報委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>1) 本学の受験者数を増やせるよう、オープンキャンパスを実施する。</p> <p>2) 受験情報が明確に受験生に届くための方策を検討する。</p> <p>3) 大学の顔であるホームページ、SNS、広報誌を充実させ、受験生や保護者へPRする。</p> <p>4) ホームページで本学教員の研究活動を紹介し、学外研究者との交流の機会をつくり、また広く一般に本学の魅力を発信する。</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) 受験者数の増加、優秀な学生の入学につながるよう、また、事故なくスムーズにオープンキャンパスが実施できることを目指す。目標来場者数は全学で2000名以上。来場者が求める情報が得られる企画、運営とし、また、体調不良者がでないよう危機対策をとる。</p> <p>2) 受験情報をわかりやすく公開し、受験者増につながる大学説明会参加を行う。</p> <p>3) ホームページを充実させるとともに、大学案内2026、広報誌を発行する。</p> <p>①遅滞なく受験情報、教育情報を掲載する。</p> <p>②学生の活動、大学の行事などの情報掲載を充実させる。</p> <p>③SNSを活用した情報発信（50件以上を目標）を継続して取り組むとともに、ホームページへの掲載との整理をはかる。</p> <p>4) 教員の研究活動の紹介を積極的に掲載し、学外からのアクセス数を増やし、活発な研究活動の推進に寄与する。</p> <p>5) 教員の活動紹介等をホームページに掲載することに関する規程を作成する。</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>1) オープンキャンパス（以下OC）の総来場者数は2,091名（高校生等1,169名、保護者等922名）で目標に達した。アンケートでの来場者の満足度も高く、模擬授業、看護体験などが好評であった。また、OC開催を知ったのは、本学HP、SNS、チラシ、ポスターなど多様であった。来場者に体調不良者もなかった。次年度もほぼ同様に実施する。</p> <p>2) 大学説明会は、昨年度の基準で高校を選び実施したが、本学への受験に繋がっているかは未定である。過去2年に訪問した高校からの入学者数、受験者数を集計中である。新入生の入学時アンケートでは、本学を知ったきっかけは「受験情報サイト」26.7%、「親や家族、親戚の話」21.4%、「高校の先生の話」14.2%で多く、「高校での進学説明会」は7.1%であった。そのため教員が高校に出向く交通宿泊費、労力に比して、受験行動に繋がっているか精査が必要である。また、アドミッションポリシーをふまえて、本学が獲得したい具体的な高校生像を明確にして、仲介業者からの依頼だけではなく、本学から積極的に獲得していく方向も検討する。</p> <p>3) 4) 4月以降のSNS投稿数は26件で、目標50件以上の半数であった。HPの充実にはページ改変にともなう業者依頼で事務局と折り合いがつかず、機能強化の記事を入れるにとどまった。引き続き、ページの具体的な刷新案を作成するとともに予算を確保する。大学広報誌は、大学院設置を見据え、各学科の教員の研究活動なども盛り込んだ。配布先も、県内の高校、主要病院、関連機関、医療系大学、および入学実績のある県外高校など、配布範囲と対象を拡大した。来年度は、後援会と協力して「いずみ」と統合し、学生の活動と教員の研究を広く広報することも検討する。HPでの教員の研究活動の紹介は、現行はSNS掲載までである。HPの充実にとまない拡大することを目指す。</p> <p>5) については、上記を踏まえ、着手できていない。</p>
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input type="checkbox"/> 3 目標に達している <input checked="" type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>（理由）</p> <p>受験者数増加のために、ホームページ・SNS・広報誌などの充実の目標を設定し、目標に沿った活動を行った。その結果、OCの総来場者数は2,091名と目標を達し、模擬授業、看護体験などを</p>

とおして来場者から高い満足度を得た。一方で、SNS 投稿数の増加、HP の刷新などの未到達の課題がみられるため、今後の取り組みを期待する。

委員長：春日広美

面談者：佐藤紀子（総括委員長）

面談日：2026 年 2 月 18 日

自己点検・評価実施推進部会：広川由子

情報システム委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>1) 学内情報システムサービスを評価し、改善を図る。</p> <p>2) 情報セキュリティ管理のための組織的な運営体制を構築する。</p> <p>3) 教職員の情報リテラシーを向上させる。</p> <p>4) 情報セキュリティポリシー運用規程について、必要に応じて見直し・改善を図る。</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) 学内情報システムサービスの改善に向けて、実態把握のための情報を収集し、分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Campus Plan への外部アクセス（成績照会、履修登録）および学生向け発行証明書（成績証明書等）のオンライン申請及びコンビニ発行など新たに導入された情報システムサービスの認知度や利用状況や、学内の Wi-Fi 環境の実態・満足度等 <p>2) 3) 学内ネットワーク、教員用 PC 等のメンテナンスおよびトラブルに対して組織的に取り組むとともに、教職員に対して本学情報セキュリティ運用規程について周知徹底を図る。</p> <p>4) 学内の教育研究、管理運営にかかる情報セキュリティの課題を把握・分析し、必要に応じて情報セキュリティポリシー運用規程を見直す。</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な結果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>1. 委員会開催状況</p> <p>対面会議 2 回、オンライン会議 1 回を開催。また、学生委員会（休学及び卒業生の Microsoft アカウント運用）、教務委員会（Web シラバス公開に係る運用変更）、図書委員会（機関リポジトリ登録申請書の内容）からの依頼事項について、メールおよび Teams 上で審議を行った。</p> <p>2. 目標達成状況</p> <p>1) 学内情報システムサービス等の実態把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Campus Plan への外部アクセス（履修登録件数）：延べ 720 件、435 名 ・ 学生向け発行証明書（成績証明書等）のオンライン申請・コンビニ発行件数：191 通 ・ 学内の Wi-Fi 環境の利用実態：一部の込み合うケースを除いて、大きな問題は確認されず <p>⇒ 昨年度導入の学内情報システムサービスは学生に浸透し、適切に利用されていることが確認された。Wi-Fi 環境についても概ね良好と思われるが、認知度・満足度については調査が必要。</p> <p>2) 学内ネットワーク・教員用 PC 等のメンテナンスおよびトラブル対応</p> <p>⇒ 前期分のメンテナンスは完了、後期分は 3 月実施予定。ネットワークの死活監視において一部瞬断があり帯域ひっ迫が考えられるケースがあったが、長期的・重大な障害は発生しなかった。</p> <p>3) 情報セキュリティ運用規程の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員向け説明動画を作成し、システム利用 TIPS と併せて周知 ・ 視聴期間：2025 年 11 月 6 日～12 月 5 日（12 月 12 日まで延長） ・ 視聴者数：88 名（教職員の 9 割以上） ・ 理解度（Forms）：規程の理解 83.0%，システム利用 TIPS の理解 76.4% <p>⇒ 教職員の 9 割以上が視聴し、理解度は概ね良好であった。質問への回答一覧を作成し、全教職員が確認できるよう Teams へ掲示予定（2 月中旬）。</p> <p>4) 情報セキュリティポリシー運用規程の見直し</p> <p>個人情報に関する注釈が個人情報保護法と齟齬が生じているとの指摘を受け、改正を行った。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>委員会の実施計画に沿った主要タスクはすべて遂行され、導入したサービスや Wi-Fi 環境の改善、運用規程の周知等にも成果が認められるため、「目標達成」と評価することが妥当である。</p> <p>[申し送り事項]</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・学内情報システムサービスの認知度・利便性満足度およびWi-Fi環境の満足度に関する調査の実施を検討する（今後の改善に向けて、利用者（学生・教職員）の評価を把握する仕組みを整える必要がある）。 ・生成AIに関する運用規程の整備の必要性、および情報セキュリティの組織体制・役割分担（第3者による確認のあり方を含む）について、検討の場や所管を整理した上で検討を進めること。
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5特に優れている <input type="checkbox"/> 4目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3目標に達している <input type="checkbox"/> 2やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1問題あり改善必要</p>
<p>(理由)</p> <p>昨年度導入された学内情報システムサービスが問題なく運用されていることが確認された。今後は評価と改善に向けた取り組みが期待される。ネットワークの死活監視においても大きな問題はなく、情報セキュリティ運用規定を教職員全体に周知した成果が認められた次年度は、大学教育や研究への生成AI導入と活用に向けた体制や規定の整備が期待される。</p>
<p>委員長：佐藤紀子</p>
<p>面談者：龍野一郎（学長）</p> <p>面談日：2026年3月2日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

衛生委員会活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1 目標</p> <p>1) 職員の危険及び健康障害を防止するための基本対策を策定し実施する。</p> <p>2) 職員の健康の保持増進を図るための基本対策を策定し実施する。</p> <p>3) 公務災害の原因及び再発防止策で衛生に関する対策を実施する。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) 産業医・安全管理者による定期的な構内巡視とそれに基づく改善。</p> <p>2) 学生・教職員に対する学内での健康障害防止と健康保持への取り組み。</p> <p>3) 職場の心のケアの増進（ストレスチェックとフィードバック）。</p>
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ●産業医による定期的な構内巡視の実施 ●労働安全衛生法で定めのある環境測定の実施予定(栄養学科及び歯科衛生学科で使用する化学物質が対象) ●衛生委員会にて、構内の労働衛生上の問題の把握と改善の討議。 ●ストレスチェック実施と高い受検率。 ●職員対象に対してメンタルヘルスケアの研修会の実施。 ・ 評価結果の理由と改善策 労働衛生環境は比較的保たれており、学生及び職員の学内での健康障害防止・健康保持への有効な取り組みが行われている。 ・ 申し送り事項 引き続き、法令を遵守し、ハラスメントの無い安心安全な職場環境の保持と、職員の健康増進をはかる。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>産業医の定期巡視、環境測定の実施予定、ストレスチェック高受検率、メンタルヘルス研修など、計画に基づく取り組みを着実に実施しており、目標に概ね到達している。労働衛生環境も概ね良好に保たれている点は特に良好。一方で、結果の数量化、改善策の具体化と巡視結果・議事内容をより体系的に次年度へ反映する仕組みが強化されることが期待される。</p>
<p>委員長：龍野一郎</p>
<p>総括委員長：佐藤紀子（総括委員長） 面接日：2026年2月20日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

危機管理委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>1) ChatLuck 利用マニュアル等の整備（機種変更時等の対応を含む）と連絡訓練を実施する。</p> <p>2) 災害対応（危機対応）初動マニュアルに則った防災訓練を実施する。</p> <p>3) 全学1年生を対象に幕張キャンパスでの防災訓練を千葉市消防署と連携して実施する。</p> <p>4) 防犯対応に関連するマニュアル等の見直しを行う</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) 全教職員が常に ChatLuck を使えるよう整備、周知、支援を行う。DL マニュアル、機種変更時の対応マニュアルを整理する。また各学科長とその代理者を選定し連絡フローを整理する。</p> <p>2) 3) 2024年度版 災害対応（危機対応）初動マニュアルに則り、平日日中に千葉県内震度6強、東京湾に大津波警報発令、学内より出火のシナリオで、第3配備体制を想定した防災訓練を実施する。対策本部設置、自衛消防隊および配備体制により教職員は出動して役割を模倣的に果たす（可能な教員）。学生および教職員は大津波警報および火災時の避難を行う。緊急連絡網で学外活動中の教職員、学生に可能な範囲で訓練連絡を行う。全学1年生（出席可能な他学年も）および教職員は大講義室または講堂に集合して、千葉市消防署からの評価と講話を聴く（講話は主に学生）。</p> <p>4) 現在の防犯に関連するマニュアルを、可能なかぎり一元化し、必要時、新規に作成する。また、教職員向けに大学における犯罪と防犯のFDを開催する。</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>1) 全教職員が常に ChatLuck を使えるよう整備、周知、支援はほぼ達成できたと考える。スマートフォンの機種変更にもなう ChatLuck アプリの再 DL もマニュアルを見て自主的に申請されるようになった。また、災害時の学科内のとりまとめである各学科長のもしものに備え、代理者を選定した。</p> <p>2) 3) 2024年度版 災害対応（危機対応）初動マニュアルに則り、6月27日（金）5限に、千葉県内震度6強、東京湾に大津波警報発令、学内より出火のシナリオで実施した。教職員は第3配備体制を想定したが、実習、授業などの理由で出動は制限された。訓練への参加者数は、学生183名、教職員55名であった。雨天であったため体育館に集合して点呼し、その後、大講義室に再集合して、千葉市消防署からの評価と講話を聴いた。その後に消火器訓練を校庭で開催したが、学生の参加者はいなかった。訓練方法は次年度も同様でよいが、消火器訓練の参加の方法には検討が必要である。なお、仁戸名キャンパスの防災訓練は例年通りに行い学生119名、教職員20名が参加した。</p> <p>4) 現在、学内にある防犯に関連するマニュアルについて、防犯の定義、不審者対応マニュアル、防犯カメラの運用について一元化した。防災訓練 Teams に載せて必要時閲覧、利用してもらうとともに、防犯訓練を次年度の防災訓練に合わせて実施する。教職員向けの大学における犯罪と防犯のFDを開催する予定であったが、適当な講師が見つからなかった。次年度の防犯訓練において、アルソック株式会社より、さすまたの使い方を盛り込む予定である。</p>
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>（理由）ChatLuck の周知や運用に関して順調に進めることができた。また、防災訓練の実施やマニュアルの一元化を行ったことは評価される。学生や教職員が常に危機管理意識を持ち、有事の際に適切に対応することができるような啓発活動やFDの開催について検討することが期待される。</p>
<p>委員長：春日広美</p>
<p>面談者：佐藤紀子（総括委員長）</p>
<p>面談日：2026年2月18日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

人事委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>1) 教員組織の定期的検証を実施し、必要に応じて組織の見直しを検討する。</p> <p>2) 教育の質を継続的に保証するための教員の確保及び教員組織の検討を行う。</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) 令和7年5月時点の教員組織について「定期的検証」を実施し、検証結果を公表する。</p> <p>2) 教員の欠員が生じた際は、速やかに教員資格審査委員会を設置し、後任補充を行う。 定期的検証結果等を基に、必要に応じて教員組織編成方針や教員組織の見直しを検討する。</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>1) 教員組織編成方針に基づいた検証を実施し、ほとんどの項目で基準を満たしていることを確認した。基準を下回る項目（教授人数、主要科目担当教員職位）は欠員によるものであり、教員組織編成方針と教員組織は適切であると判断した。教員構成については、年代構成（看護）や男女比率（理学・作業）、学位取得率の経緯を継続的に注視することとした。</p> <p>2) 欠員教員の後任補充は欠員期間が最短となるように教員選考を迅速に開始した。一部欠員が継続しているポストについては、引き続き後任補充に努めていく。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>1) と2) について計画通りに活動し、目標を達成することができた。</p> <p>[申し送り事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も定期的検証を継続して行う。 ・教員構成に関する懸念事項（年代構成，男女比率，学位取得率）の経年変化を注視して、必要に応じて対応を検討する。
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>教員組織の定期的検証や、教育の質の継続的保証という目標に沿った活動が実行された。その結果、欠員教員の後任補充に迅速に対応され、適切な教員組織編成方針と教員組織が保証された。今後は、教員構成に関する課題（年代構成，男女比率，学位取得率）への継続的な対応が期待される。</p>
<p>委員長：石井邦子</p>
<p>面談者：佐藤紀子（総括委員長）</p> <p>面談日：2026年2月19日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

教員再任審査委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規程における審査項目や方法について、教員再任審査委員内で共通理解を得る。 ・審査方法に則って適正に教員再任審査を実施する。 ・新規程における審査項目や方法に関する課題を明確化する。
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規程における審査項目や方法について委員会内で十分に確認し、疑問点や不明点を解決する。審査中も必要に応じて、審議・確認を行う。 ・審査方法に従い審査を滞りなく実施する。 ・審査項目や方法に関する課題を各委員から聴取し、集約する。
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規程における審査項目・方法について委員会内で確認・共有した上で審査を実施できた。 ・審査について滞りなく適正に実施できた。 ・申請者が情報にアクセスしやすいように、授業評価アンケート結果をファイルサーバに保管する案を教務委員会に提出し、承認された。 <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規程での初めての審査となったが、大きなトラブルなく円滑に審査を遂行できたと考える。今年度は申請者が少数であったため専門部会を立ち上げなかったが、専門部会を立ち上げた際には改めて部会内での審査方法の確認と共有が必要となる。 <p>[申し送り事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き再任審査における課題の抽出を行い、必要に応じて審査方法や規程の修正を検討する。
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>新規定による審査を滞りなく適正に審査実施されており、目標達成された。授業評価アンケートのアクセス利便性を向上する取り組みもなされ、教員再任審査システムの改善が図れている。申請者数が少数であり専門部会を立ち上げることはなかったが、今後、申請者数が増え専門部会を立ち上げる必要がある際には、改めて、審査方法の評価・改善への取り組みが期待される。</p>
<p>委員長：大谷拓哉</p>
<p>面談者：佐藤紀子（総括委員長）</p>
<p>面談日：2026年2月17日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>

キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 活動達成状況点検・評価表（2025年度）

<p>1. 目標</p> <p>学生、教職員に対してハラスメント防止に関する基礎知識を周知し、学内で生じたハラスメントに適切に対応する。</p>
<p>2. 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) ハラスメント対応に関するマニュアル・フローチャートの周知</p> <p>2) 学内ハラスメント防止に関する研修会及びアンケート調査の実施</p> <p>3) 相談の傾向を把握するための報告書の検討</p> <p>4) 申し立てに対する適切な対応</p>
<p>3. 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果</p>
<p>4. 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>[達成事項]</p> <p>1) 相談員一覧およびフローチャートについて、年5回にわたり Teams を通じて学生および教職員へ周知した。また、全相談員に関係資料を共有するとともに、新規相談員に対しては個別に役割や面談方法について説明を行った。</p> <p>2) ハラスメントを防止するコミュニケーションの普及を目的として、FDSD 委員会と合同で、8月7日に演習形式によるアサーティブ・コミュニケーション研修を対面および動画配信で実施した。毎年実施しているキャンパスハラスメントアンケートは、回収率を高めるため実施方法について委員会で検討した（2月17日に依頼、2月25日リマインド、3月4日締切）。</p> <p>3) 相談の傾向を把握するための報告書の必要性について検討した。その結果、相談の継続性を保証する観点から新たな報告書様式は設けず、現行の記録様式から個人情報情報を削除したものを活用することとした。</p> <p>4) 外部相談員および学内相談員ともに、年度内に新規の相談はなく、申し立ての意向表明もなかった（2026年2月10日現在）。</p> <p>5) 相談への心理的障壁を低減するため、関係規程等における「苦情相談」という表現を「相談」に改正した。</p> <p>[評価結果の理由と改善策]</p> <p>1) 相談窓口の周知は行ったものの、新規の相談がなかったことから、次年度は相談することの意義や重要性についても併せて周知していく必要がある。</p> <p>2) 研修会の参加者は、対面22名（満足度90%）、動画40名（満足度80%）であり、内容は一定程度ニーズに合致していたと考えられる。一方で、参加教員は計62名で、教員全体の約86%にとどまったことから、次年度は全員参加を目標とし、周知の時期や実施方法について検討する必要がある。</p> <p>[申し送り事項]</p> <p>相談の重要性および相談方法に関する学内周知の強化、ならびに研修会の早期企画立案と学内周知の徹底。</p>
<p>5. 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>目標に達している。相談窓口の周知や研修会の実施など計画的に取り組み、学内のハラスメント防止体制整備は概ね達成された。今後は相談促進と研修参加率向上に向けた学内周知の方法について具体的なプランが期待される。</p>
<p>委員長：小宮浩美</p>
<p>面談者：佐藤紀子（総括委員長）</p>
<p>面談日：2026年2月19日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：広川由子</p>